

【試し読み用サンプル】

「空の水槽」

作・ひきだ愛音（戯曲本舗）

【登場人物】

サエ

ツキオ

こつごう（ソノタオオゼイ）

【舞台】

空間が一つ。

見ようによっては、アパートの一室のようでもある。

正面奥の壁に、少し離れてドアが二つ。上手側は外に通じるドア。下手側は奥の部屋に続くドア。

部屋の中央にはコタツ。

見上げればロフトのような、この空間を見下ろすことができるスペースがある。

ロフトの下の部分はキッチンカウンターのような台がある。

【一場】

アパートの一室。コタツのそばで、ツキオが洗濯物を畳んでいる。
やがて表へ通じるドアから、サエ登場。スーツ姿、手には鞆とスーパールのレジ袋を提げている。やや疲れている様子。

サエ ただいま。

ツキオ おかえり。

サエ はい、冷蔵庫よろしく。

サエ、レジ袋をツキオに渡し、奥のドアへ入っていく。

ツキオ、袋から食品を取り出す。奥の部屋に声をかける。

ツキオ ご飯、温める？

サエ (声のみ) うん。

ツキオ、食材を冷蔵庫に入れる。

サエ (声のみ) …今日は？

ツキオ レタスチャーハン。

サエ (声のみ) そう。

ツキオ あと、モロヘイヤの味噌汁と、

サエ (声のみ) うん。

ツキオ 豚バラ塩炒め。

サエ (声のみ) おー。

奥のドアが開き、部屋着に着替えたサエが登場。手にはさらしきもの。

ツキオ 今日は何？

サエ え？ああ…映画じゃないよ、これは。仕事の資料。

ツキオ そう。

サエ 今回は、ちょっと頑張らないといけないんだ。

ツキオ 大変なんだ。

サエ うん。だからしばらく迷惑かけるかもしれないけど、よろしくね。

ツキオ いいなあ。

サエ え？

ツキオ いや。頑張ってるね、大黒柱さん。

サエ (ふんぞり返り) おう。じゃあ、飯。

ツキオ はいはい。

と、突然隣の壁から、やかましい音楽が聞こえる。

サエ またか…

ツキオ 最近は結構静かだったのにね。

サエ 前よりひどい。

暗転。

続

【執筆当初を振り返って】

どこかの実在するロフト付きマンションを借りて、そのロフトスペースにお客さんを入れるだけ詰めて、上から階下で繰り広げられる『同棲カップルの日常』を覗き込んでもらう…最初はそんな設定から書き始めました。途中でそのルールに限界がきてやめました
が(笑)